

自律
挑戦

志保井が丘

協働
創造

2021.3.15 発行 文責 校長 目黒 満

教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校

令和3年度、本校の合唱コンクール復活に向けて ～エビデンスを積み重ねながら～

12日金曜日には、これまでの練習の何倍もいい声が出ていた校歌に始まり、卒業生のソリスト4人によるすばらしいアカペラパートから卒業生全員の心のこもった「仰げば尊し」、そして全校合唱「旅立ちの日に」と

今年度、コロナ禍で特設合唱部の活動や合唱コンクールができなかったにもかかわらず、すばらしい全校生のハーモニーで卒業式の感動がより一層大きなものとなりました。卒業生一人一人の一挙手一投足も丁寧で落ち着いており、それを見つめる在校生の姿勢や視線、動きにも卒業生への感謝の気持ちが現れていたすばらしい卒業式となりました。

今年度、感染リスクの高い学習活動の一つとして音楽の時間の合唱や笛・木管・金管楽器の演奏などがやり玉に挙げられていた感があります。そのため、音楽の授業では、基本的には距離を確保し、マスク着用で換気をし、できるだけ短時間で等々、いくつもの制限下での授業とせざるを得ず、指導時間も最短での指導となりました。合唱や吹奏楽のコンクールも軒並み中止となり、「歌声の響く飯野中の伝統が危ういのでは」とまで思いましたが、卒業式前の練習と当日の名演がその不安を一気に吹き飛ばしました。

でもやはり、マスクをつけて歌うのは、一生懸命に歌えば歌うほど、ブレスの際等にはかなり苦しいものです。なので、本当は「早くマスクを外して合唱をしたい!」と強く願っているのが本音です。そんな折、今朝の福島民報にこのような文章が載っていました。

合唱曲「天地讃頌」は全国で歌い継がれている名作の一つだ。△母なる大地を讃えよ、愛めよ、贖えよ土を▽。平和を祈り、土の恵みに感謝する。戦時中、浪江町に身を寄せた詩人大木惇夫の実験が歌詞の底流にある▼この雄大で力強い名曲を使い、全日本合唱連盟は実験を試みた。歌声とともに口から出る飛沫はどこまで飛ぶのか。合唱団員二十人が歌い、最長距離は男性が六十一センチ、女性が五十七センチだった。ではドイツ語のベートーベン「第九」かどうか。大合唱で知られる曲だけあり、百十一秒を記録した▼声楽アンサンブルコンテスト全国大会が十八日に福島市で開催する。新型コロナウイルス感染症対策として、ステージ上の出演者は互いに二メートル以上の間隔をとる。実験結果を根拠とする連盟のガイドラインを参考にした。消毒なども徹底し、より安全な環境を目指す▼昨年は全国規模の主な合唱大会が相次いで中止となった。コロナ禍で歌う喜びを分かち合う方法をみんなで探ってきた。その一歩を合唱王国福島から踏み出す。一般客は入場できないが、動画を配信する。歌声に込められた情熱と感動は、距離を越え人と人の心を結ぶ。

あぶくま抄

全日本合唱連盟が実験をして、エビデンスを示してくれたのです。エビデンスという言葉は、日本語に訳すと「科学的根拠」です。例えば、飛沫感染に関して、「このくらいならなんとなく大丈夫だろう。」とか「これは多分だめかも。」等、感覚的に思う、考える、感じるのではなく、しっかりと科学的な手法で客観的な調査を実施し、そのデータを基に分析した結果として「大丈夫です。」とか「危険性が高い。」等の判断をする証拠・根拠となる事柄を「エビデンス」と言います。こうしたエビデンスを一つ一つ積み重ねながら、今制限されていることも、安全なやり方で一つ一つ新たな形で復活させて行けるよう取り組んでいきたいと考えます。

体育館の修理 無事に終了

先月13日の地震により、本校体育館の照明が10カ所ほど点灯しなくなり、電球交換のための昇降装置にも不具合が生じました。その修理のため、今週の月・火の2日間、足場を組んで、移動しながら一つの照明の修理工事が行われました。

そのため、昨日と今日は体育館使用ができないので、今日を部活動休養日とし、本来休養日の明日水曜日に部活動を実施します。



本日、生徒活動後援費・給食費を返金しました
先週お伝えしたとおり、本日、生徒を通じて返金をしました。金額を確認の上、領収書をお戻しください。